



四万十町
町内「ぶらへり」散策

江 師

旧 大正町・旧十和村は、江戸時代まで「上山郷」といった。上山郷は上分と下分に分かれており、ざっくり分けると上分が旧大正町、下分が旧十和村となるのだが、細かく見ていくと、旧大正町の中でも下分であったところもある。江師もそうである。上山郷とは、この地を支配していた上山氏の名による。

さて、江師へ。窪川方面から国道381号を走り、田野々を過ぎる。田野々トンネルを左手に見ながら直進し、梶原方面へ向かって国道439号を行く。最初のトンネル（江師トンネル）をくぐるとすぐに梶原川を渡る。橋を渡ったところ（小石トンネルの手前）を左折すると、小石地区で、この集落を抜けると左手の梶原川の向こうに江師の集落が広がる。背後にある雄大な山並みの裾野に民家が点在している。地区には「オートキャンプ場・ウエル花夢」があり、そのすぐ近くで縄文時代の遺跡が発掘された。

慶長2年（1597）関ヶ原の合戦の3年前の記録には「江志村」とあり、この頃にはすでに16町を超える耕作地が存在したとある。江戸時代に入り、常に30〜40世帯・200人前後の人々が暮らす大きな村であった。この時代は、近隣の木屋ヶ内村・小石村・下道村を江志村の小村としていたと、享保元年の記録にある。この記録によれば、本村である江志村に庄屋を置き、各小村には名本という、村長のような役職を置き支配していたらしい。

橋から江師地区を眺めると、左前

方に小高い里山のようなこんもりとした山がある。この山は「環流丘陵」である。つまり、かつての梶原川は、この山をぐるっと回って蛇行していたのである。今年2月に、2週にわたって放映されたNHK「プラタモリ」では、十和・大井川地区に残る環流丘陵が紹介された。その中で「四万十川沿いには幾つかの環流丘陵がある」とあったように、四万十川の支流である梶原川にも存在するのである。

この環流丘陵の北西方向に「折付」という場所がある。ここは、山から街道を下ってきた場所で「降り着いたところ」という意味なのだそうだ。

この山越えの街道は十和方面との往來の重要ルートだったらしい。十和方面との往來が盛んであったことを示す神社がある。江師には森神社という神社があつて、現在は小さな祠になっているというが、この森神社の元は森野神社であつたとされ、戦国末期の記録の森野神社の項に「森野堅物」という武士の名が記されている。森野という姓は今も十和に残っている。



なるほど環流丘陵らしい形をしている。

町のうごき	(8月31日)				前月比				出生 死亡 転入 転出				適正值(mg/l)		9月10日							
	男	女	計	世帯数	男	女	計	出生	死亡	転入	転出	リン酸	硝酸	アンモニウム	アニオン活性剤	化学的酸素要求量	測定範囲以下	測定範囲以下	測定範囲以下	0.20	測定範囲以下	
	7,878	8,673	16,551	8,379	-5	-2	-7	5	25	39	26	≤ 1.0	≤ 0.5	≤ 5.0	≤ 1.0	≤ 10.0						
	窪川地域 11,709人				大正地域 2,311人				十和地域 2,531人													

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部